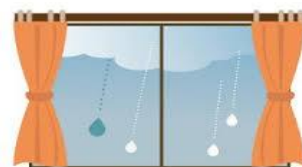


月刊 AEHA通信

2020 年6月号

◆◆◆ 今月の主な内容 ◆◆◆

- ◇トピックス : 2020 年度版スマートライフおすすめ BOOK 発行
- ◇主な委員会活動等 : 第 31 回運営委員会等
- ◇協会インフォメーション : 今後の行事予定等
- ◇定点観測データ : 家電リサイクル法対象4品目引取実績等
- ◇溜池ボイス : 1カ月の明暗



■□■トピックス■□■

◆2020 年度版スマートライフおすすめBOOK発行

このたび家電製品協会では、地球温暖化防止事業の一環として、「2020年度版スマートライフおすすめBOOK」を制作し、行政、流通(量販、全国電機商業組合連合会等)、賛助会員会社、関係団体等に6月上旬から順次配布いたします。

この冊子は、資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課、環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル推進室及び関係工業会にご協力を頂き、最新の省エネ情報などを掲載して、B6版サイズ、52ページで編集しています。

PDF版を「省エネ家電deスマートライフ」ホームページに掲載、ダウンロード頂けますのでご活用下さい。

http://www.shouene-kaden2.net/recommend_book/

2020年度版スマートライフおすすめBOOK(概要)



表紙

目次	
地球温暖化の現状と対策を学ぶ	P2
「COOL CHOICE(クールチョイス)」	P10
地球温暖化対策のために買い換えるよう	
省エネ	P13
家電製品の正しい使い方や見直しによる、省エネの方法を学ぶ	
省エネ	P34
一歩前進でもできる、省エネづくりの工夫方法を学ぶ	
省エネ	P38
省エネをためておき、必要に応じて活用する方法を学ぶ	
省エネ(ホームズ)・省エネ(セツチ)	P42
HEMS・ZEMSの活用と省エネを促進しよう	
省エネ技術の発展・「しんきゅうさん」	P46
省エネ家電を販売しやすく便利に、お役立ち情報を学ぶ	

目次

■□■主な委員会活動等■□■

<管理部関連>

◆第 31 回運営委員会 (6 月 3 日)

6月3日に第 31 回運営委員会を開催しました。感染症対策のため「社会的距離」を確保し、リアルとリモートを併用した形で実施しました。冒頭、6月1日付で異動された経済産業省情報産業課藤村和弘課長補佐と、後任の村上敦子課長補佐のお二人から就任の挨拶をいただいた後、6月の理事会、評議員会の議案となる2019 年度事業報告及び決算報告等の説明を行いました。



藤村課長補佐



村上課長補佐

<消費者部関連>

◆製品安全委員会

本委員会は、製品ライフサイクル全般にわたる製品安全確保の取り組み、個社では解決の難しい共通課題についての調査・研究、並びに施策の実施を目的として活動を行っています。

○第1回「製品安全委員会運営会議」(5/22 書面審議)

1. 今年度の活動計画について
2. 第1回製品安全委員会(6/19 予定)の議事次第について
3. 外部委員会(経産)「IoT化等が考えられる電気用品等機器に係る製品安全の確保の在り方に関する検討会」への委員選出について
4. 赤外線リモコンコード付与の審議1件

○第2回「電動車 AC100V 電源検討会」(5/19 Web 会議)

1. 2020 年度第1回 EV電源検討会書面審議の結果報告
2. 今年度の活動体制と活動方針について
3. 自工会との第2回意見交換会への対応について

◆UD技術委員会

本委員会では、UD関連のJIS、ISO原案作成委員会に委員を派遣し、業界意見の反映を図っています。また、UD関連に取り組む関係機関との意見交換を通じて政策の動向把握と課題発掘に努めています。

○UD技術委員会事前会議(5/15、25 Web 会議)

1. 家製協ガイド「ICT 機器連携に関するアクセシビリティ配慮事項」の作成について
2. JIC C 0003 改訂について

◆アフターサービス委員会

本委員会では、長期使用製品の安全点検の効果的、効率的な仕組みや、アフターサービスに係る行政からの指導事項への対応を行っています。

日本冷凍空調工業会と連携して本年夏季に向けて作成したエアコン季節前安全点検リーフレットを家製協HPに掲載(5/13)しました。



https://www.aeha.or.jp/safety/pdf/exam/air_conditioner_maintenance_02.pdf



<技術部関連>

◆第2回 省エネルギー対策委員会 (5月29日・メール審議)

2020 年度第2回の省エネルギー対策委員会をメール審議により開催いたしました。

主な議題は以下のとおりです。

1. 前回議事メモ案の確認
2. 総合資源エネルギー調査会・省エネルギー・新エネルギー分科会・省エネルギー小委員会及び傘下のワーキンググループにおける審議内容の確認
3. 関連 WG(啓発WG、おすすめBOOK編集会議)の活動報告
4. 電機・電子温暖化対策連絡会の活動報告

○第2回 省エネ家電温暖化防止啓発WG（5月11日・メール審議）

2020年度第2回の省エネ家電温暖化防止啓発WGをメール審議により開催いたしました。

主な議題は以下のとおりです。

1. 前回議事メモ案の確認
2. 2020年4月度アクセス状況の確認

<認定センター関連>

◆資格審査委員会【第三者委員会】（5月9日書面審議）

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が継続されるなか、通常6月1日からスタートする9月試験（第39回全国統一試験）の受験申請を約1ヵ月間順延することを決定しました。また、6月中旬には、同試験の開催可否を含め、開催要領について具体化する方針を併せて決定しました。

なお、上記の決定に伴い、試験内容の実務を担う関連委員会・ワーキング（ドキュメンテーション部会、スマートマスター推進委員会ほか）に対し、書面にて状況報告した上で、活動日程の順延について理解を求めました。

<その他>

その他の部門で5月に予定していた委員会、会合につきましては、新型コロナウイルス感染症防止対策の為、延期及び中止となりました。

■□■協会インフォメーション■□■



◆今後の行事予定

月 日	時 間	行 事	主な議題等	場 所
6月16日(火)	—	理事会（書面決議）	事業報告、決算報告等	—
6月26日(金)	—	評議員会（書面決議）	事業報告、決算報告、 評議員・役員選任等	—
6月29日(月)	—	理事会（書面決議）	代表理事(理事長等)選定	—
7月17日(金)	16:00～17:00	第32回 運営委員会	部門別活動報告等	家製協 3・4・5会議室
10月26日(月)	16:00～17:15	第16回 理事会	2019年度事業報告等	ザ・キャピトルホテル東急
	17:30～19:00	第4回 家電産業交流会	新理事長就任挨拶	ザ・キャピトルホテル東急
12月 2日(水)	16:00～17:00	第33回 運営委員会	部門別活動報告等	家製協 3・4・5会議室

■□■ 定点観測データ ■□■

◆家電リサイクル法対象4品目引取実績（5月度）

2020年5月度の4品目の引取実績は、以下のとおりです。

（台数：千台）

品 目	当 月		年度累計	
	台数	前年比	台数	前年比
1.エアコン	318	91%	487	85%
2.テレビ 計	274	112%	534	111%
① ブラウン管式	86	101%	165	99%
② 液晶式・プラズマ式	188	118%	369	117%
3.冷蔵庫・冷凍庫	264	94%	510	93%
4.洗濯機・衣類乾燥機	314	88%	619	89%
合 計	1,170	95%	2,150	94%

（うち指定法人）

（台数：千台）

品 目	当 月		年度累計	
	台数	前年比	台数	前年比
1.エアコン	3	90%	5	89%
2.テレビ 計	18	130%	36	135%
① ブラウン管式	7	112%	14	118%
② 液晶式・プラズマ式	11	146%	22	150%
3.冷蔵庫・冷凍庫	21	83%	41	84%
4.洗濯機・衣類乾燥機	7	92%	14	91%
合 計	49	98%	95	99%

◆家電製品国内出荷額の月別・年度別推移データを更新

2020年3月度実績と年間推移を、協会ホームページに掲載しました。

<https://www.aeha.or.jp/about/pdf/shukkasui202003.pdf>

■□■ 溜池ボイス ■□■

◆1ヵ月の明暗

先月末、緊急事態宣言が解除されました。「日本の感染症対策はことごとく見当違いに見えるが、結果的には奇妙にもうまくいっている」と、米国の外交誌「Foreign Policy」が報じたほど、感染者、死者数共に非常に低い水準で推移しています。日本は中国からの観光客が多かったし、入国制限も遅かった。また、Social Distance（社会的距離）や外出規制も欧米と比べれば中途半端。なによりも感染防止に不可欠とされるPCR検査数が圧倒的に少ないことは皆さんも周知のとおりです。それでも今尚もって、死者数が数百名ということは「世界の奇跡」であり、専門家の間で「謎の解明」についての様々な議論がなされています。



世間ではその理由に、日本人の公衆衛生習慣(手洗い、マスク、脱靴など)とか、BCG 接種の徹底とか、おじぎ文化(握手をしない)とか、挙句には「神風」説まで飛び出る始末ですが、先月「Cambridge Open Engage」という研究プラットフォームサイトに興味深い論文が掲載されましたのでご紹介します。

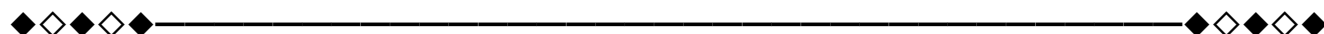
論文を執筆したのは、京都大学大学院医学研究科の上久保教授と、吉備国際大学の高橋教授の研究グループですが、「日本の入国制限が遅れたことが結果的に感染抑制に奏功した」と結論づけています。確かに、武漢が封鎖されたのは1月23日。それを受けてイタリアが直行便を停止したのが2月1日、米国もその翌日に入国制限を実施しましたが、日本が中国との入国制限を強化したのはそれから1ヵ月も遅れる3月9日です。その僅か1ヵ月が、日本と欧米の明暗を分ける運命の時間であったという説です。

上久保教授らが注目したのは「ウィルス干渉」という現象です。それは1個の細胞に複数のウィルスが同時に感染したときに、一方のウィルスの増殖を抑制することを指します。日本では昨年秋からインフルエンザの感染が始まっていましたが、その後感染の拡大が止まってしまいました。教授らは「この現象は新型コロナウイルスの未知の型がインフルエンザの感染拡大を抑えたのではないかと考えたことで、これまで見過ごされてきた2種類の新型コロナウィルス(S型とK型)を発見することに成功した」といいます。

S型は昨年10～12月に、その変異形K型が12～2月にかけて広まりました。それら2種類は、その後全世界を席巻した「G型(武漢型)」の前身と言うべきウィルスです。そして、K型に感染した細胞は「武漢型」を防ぐ機能を有する反面、S型は「武漢型」の侵入が容易なばかりでなく、ウィルスが爆発的に細胞に感染していく「ADE効果」を起こします。つまり、欧米諸国は入国制限を早くから実施したため、K型の流入をも阻んでしまい、日本は遅れた為にG型の前にK型が浸透し、その抗体がFire Wall(防火壁)の役目を果たしたのではないかとということです。



もしこの説が本当なら、日本はたまたま幸運だったということで、衛生習慣などでは安心できないということですね。ある報道番組では「日本の緊急事態宣言は果たして必要だったのか?」とか、「大山鳴動して鼠一匹」とか、色んな意見が飛び交っていますが、「大山を鳴動させたから鼠一匹で済んだ」と考えるべきで、今後も「大山」を「鳴動」させていくことが重要ではないでしょうか。そして今、少し落ち着いた時に、次の危機に備え、Real to Remoteの「新しい日常」にシフトさせましょう。



本メールは一般財団法人家電製品協会の賛助会員の皆様に配信しています。

記載された内容を許可なく転載・複製することを禁じます。

【配信停止方法】

本メールの配信の停止をご希望される方は、会社(団体等)名、氏名及び「配信停止を希望する」旨を本メールの返信にてご連絡ください。



〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-7-1 霞が関東急ビル 5 階 代表 tel.03-6741-5600

